

# 川面小学校



## 1 単元名 表現を工夫して書こう 「物語を作ろう」

## 2 単元の目標

- いろいろな読み物に興味をもって読んで、自分の感じたことを物語として書き、考えを深めようとしている。

〈関心・意欲・態度〉

- 写真をもとに想像を広げ、物語を作ることができる。

〈書くこと〉

- よりよい文章にするために、工夫した構成や表現などについて、その効果を考えて確かめたり書き直したりできる。

〈書くこと〉

- 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。 〈書くこと〉

- 文章にはいろいろな構成や表現の工夫があることについて理解することができる。

〈言語に関する知識・理解・技能〉

## 3 指導上の立場

## (1) 単元について

本単元は、「物語を作ろう」を中心教材として、子どもが興味をもった写真から自由に想像の世界を広げ、同学年の友達に向けて、自分だけの物語を作るという活動を通して「書くこと」の能力を育てることをねらいとしている。このような学習活動から、子どもたちが伝えたい思いをもとに楽しみながら「書くこと」に取り組み、これまでに読んできた物語には構成や表現の上での工夫があることに気づき、創作や推敲、校正の作業を通すうちに、これまでの読書経験を基礎として自分の文章にも効果的な書き方を工夫していけると考えた。そして、友達の物語を互いに読み合い、自分なりに感じた事や考えた事をまとめ、感想を交流したり具体的に助言したりすることで、書き手と読み手の両面から文章を見つめ、「伝えたいことを、筋道立てて書く」ということを意識し、単元を通してその力を伸ばしていけることを期待している。

## (2) 研究主題との関連

矢掛町の教育行政重点施策である「コミュニケーション能力の向上」を受けて、本校では国語科の研究を進めている。本年度の研究主題を「思いや考えを進んで書き、伝えようとする子ども～話すこと、聞くこと、読むことと関連付けて～」と定め、コミュニケーション力の育成をはかるために国語力の向上をねらい本題材を設定した。書くことの交流に関する指導事項は新指導要領で大切にされていることであり、自分の中に広がる自由な想像の世界を物語に表し、それを互いに読み合う活動を通して、思いや考えを進んで書く子どもが育つと考えた。

「つかむ」過程では、教科書の教材文を読み、自分の想像の世界を自由に広げる喜びを呼び起こしながら、交流学習校の友達に向けて自分たちの味わった想像の楽しさを伝える物語を作る活動に取り組むことを伝えることで、目的意識をもって書く意欲を高めていきたい。

「ふかめる」過程では、最初に自分の気に入った写真を選ぶ。ここでは教科書の写真の他に、人物や動物、植物、季節を感じる風景、あるいは組写真などを教師が準備しておき提示することで、子どもが多様な物語を作っていける手助けとする。次に選んだ写真から想像を広げ、物語のあらすじなどを考えていく。この段階では、「連想言葉マップ」を準備し、自分が選んだ写真から連想して思いつく言葉をどんどん書き込んでつなぎ、楽しみながら想像を広げつつ、自分の物語のイメージを固めていけるようにする。その次にあらすじを考え、物語を書く活動に入る。ここでは…①物語の登場人物や舞台設定などを明確にしなが、それをもとにあらすじを考えるこ

とができるワークシートを準備し、活用させる。②既習の物語から構成や表現上の工夫がなされているものを取り上げ、そのよさを話し合うことから、子どもがその具体的な文章の組み立てや言葉の豊かな使い方について気づいたり確かめたりして、自分の物語に生かしていけるようにする。③パソコンのワープロソフトを活用（総合的な学習の時間とも関連づける）し、自分の物語の下書きを打ち込み、以後の校正や推敲の作業での心理的・時間的な子どもの負担を減らす。…などの手だてをしながら、子どもが進んで物語を書いていけるようにしたい。

本時では、一度できた下書きを互いに読み合っ交流し、読んだ物語に対して自分の考えをもつとともに、物語をよりよくするために助言し合う活動をする。ここでの話し合いは、限られた単元の時間の中でも全員の物語が友達の誰かから評価や助言をしてもらえるように、2人組(3人組)で行うようにする。その際、子どもが物語の構成や表現のよさに多く気づけるようなワークシートを準備し、その記入の仕方などについて提示したり助言したりして、子どもたち(書き手と読み手)がお互いにより学び合いができるようにしたい。

「ひろげる」過程では、完成した物語を1冊の作品集にまとめ、自分たちの学習成果を実感できるようにする。そして、交流学習校の友達からの感想をもらい、それを読みながら振り返りをして「書いて伝える」ことの素晴らしさを子どもたちに味わわせたい。

#### 4 単元の指導計画(総時数8時間)

| 過程   | 時      | 主な学習活動  | 支援と評価<◇>   |
|------|--------|---|--|
| つかむ  | 1      | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">写真から想像を広げ、物語を作ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 P54～57 を通読し、これからの学習についての見通しをもつ。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>物語は交流学習をしている山田小の友達に読んでもらうことを伝え、子どもの意欲を高める。</li> <li>子どもが学習活動の見通しをもてるように、活動のおおまかな計画を話し合う。</li> </ul> ◇物語を作ることを知り、意欲的に学習活動に取り組もうとしている。<br>[関] 発言・態度           |
| ふかめる | 1<br>2 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">物語のもとになる写真を選び、想像を広げよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>物語のもとになる写真を決める。</li> <li>選んだ写真から想像を広げながら「連想言葉マップ」を作り、物語のおおまかな内容を考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが選択しやすいよう、教科書の他にも数点の写真を準備し、提示する。</li> <li>他の子どもの参考となるよう、個々が自由に連想した「連想言葉マップ」を紹介する。</li> </ul> ◇選んだ写真から自由に想像を広げながら、物語のおおまかな内容を考えることができる。<br>[関] 態度・連想言葉マップ |

## 第5学年 道徳学習指導案

平成22年1月22日（金） 公開授業Ⅱ 指導者 石井由起子

### 1 関連的な道徳の学習のテーマ

#### WE ARE THE WORLD Ⅱ



### 2 関連的な道徳の学習のねらい

道徳の時間を要として、人権週間の取り組みや総合的な学習の時間との関連を図りながら学習を進めることで、だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平に接しようとする態度を養う。

### 3 研究主題との関連

矢掛町の教育行政重点施策である「コミュニケーション能力の向上」を受けて、本校では、道徳を通して、「児童の豊かな心情を育む道徳教育－地域の特色や外国とのかかわりを生かした授業実践－」を研究主題とし、研究を進めている。コミュニケーション能力の側面には「心の力」があり、それを道徳教育を中心に育もうと考えている。

5学年では、外国とのかかわりを生かした取り組みを重点的に行ってきた。そのことが、自国や異国の文化・伝統を理解し、尊重する心を育むことにつながるととらえている。

2学期の実践では、総合的な学習の時間に外国（ネパール・ミャンマー）の話の聞いたり、いろいろな国の様子を調べて発表したりした。道徳の時間には、日本の文化を知り、外国の人々との親善に努めることの大切さも気付いてきている。

3学期には、お互いの「よさ」「ちがい」をきちんと認め合った上で、不公平に気付くとともに、正義感・勇気をもって行動していこうとする児童の姿を目指して、関連的な道徳の学習を組んでいる。道徳の時間では、黒人差別を取り上げることにより、差別・不公平に気付きに、勇気をもって公正、公平に接するという価値をおさえる。その後は、不公平だと思う発言・行動に対する気付きを大切に、みんなで話し合うことで解決していく。こうした取り組みを進めることで、広い視野から、異なる文化を持った人々との「ちがい」に気付き、認め合い、尊敬するとともに、共に生きていこうとする国際理解教育の資質や能力を育むことにつながると考える。

### 4 子どもが会う「新しい自分」

- ・友達やいろいろな国の人に対して、公正、公平に接することが大切だと感じている自分

(価値の深まり)

- ・差別や不公平に対して、正義をもって行動したいと考えている自分

(意欲の高まり)

5 構想図

[日々の暮らし]

[道徳の時間]

[各教科等]

[児童の意識]

・人権週間  
学級のめあての振り返り **支援1**

・子どもの権利条約掲示

・「アンクルトムの小屋」  
読み聞かせ

---

・これって変！

・今，できること  
身近なことから始めよう（私の行動カード）  
**支援4**

総合的な学習の時間  
「国際理解教育で大切にしたいこと」

・子どもの権利条約  
世界の子どもの保障されている権利について知る。

・C I R交流会  
C I Rの先生が「外国人」というだけでいやな思いをした経験や先生の母国アメリカでの様子を聞いたり，質問したりする。  
**支援2**

---

道徳の時間  
主題名「だれもが人として」4－（2）  
資料名「マーチン少年の夢」  
ねらい  
だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正，公平にすることの大切さに気付き，同じように人に接しようとする心情を育てる。  
**支援3**

・「国際理解教育で大切にしたいこと」を振り返って  
**支援5－①**

「WE ARE THE WORLD I・II」の学習を終えて  
「ぼく・私の考える本当の国際理解とは？」  
**支援5－②**

・学級のめあて「仲間を大切にする子」が守れているかな。もっと仲良く認め合えるクラスにするには，何が必要だろうか。

・私たちには子どもとして認められている権利がたくさんある。自分にも友達にも，同じようにあるんだ。

・みんなが同じ人間であるはずなのに，世の中には，言葉や外見がいろいろと違うというだけで平等にされないことがあり，いやな思いをしている人がいるんだなあ。

---

・ひどい差別があったんだ。許せない。

・正義感と勇気をもって行動したキング牧師は偉い。

・みんな同じ人間なんだ。差別すること，されることがあってはならない。

・人はそれぞれ違うんだ。同じように人に接することって難しいが，とても大切なことだ。友だちを傷つけないようにしたい。勇気をもっていろいろな国の人にも同じ態度で接していこう。

・小さいことだけれど，不公平だと思うことがあるんだな。みんなで話し合うことで一つ一つ解決できてうれしい。

・仲間を大切にする学級に近づいてきたな。

・気付いたことは，できるだけ行動に移していこう。自分にもできることがある。

・国際理解って，外国のことを知ることだけでなく，身近なところから始められるんだ。

・本当の国際理解とは「見かけが違ってでもだれとでも仲良くできること。日本のことを知って，世界のことでも理解すること。自分に今できることは何かを考えて，行動に移せること。」だ。

## 6 支援

**支援1** まとめの3学期にあたり、改めて「仲間を大切にする子」という学級目標について考え、身の回りのことや日常生活を振り返ることができるようにし、身の回りにおける差別・不平等感に気付くことができるようにする。

**支援2** CIRの先生から、「外国人」というだけでいやな思いをした経験を聞くことにより、外国人に対する差別的な意識にも目を向けることができるようにする。

**支援3** 大きな人種差別に立ち向かったキング牧師の気持ちに寄り添い、不合理な差別に対する憤りに共感しいろいろなちがいを認め合った上で公正公平に接していくことの大切さに気付く、誰に対しても同じように接していこうという心情を育てる。

**支援4** 日々の暮らしの中で、不公平だということに気付くことができるように意識し、それを感じたときに自分に何ができたかをカードに書くことで、行動できた自分を意識できるようにする。

**支援5-①** 総合的な学習「国際理解教育で大切にしたいこと」のまとめをすることで、国際理解とは、外国のことを知ること、外国の援助を考えることだけでなく、日本のことを知ることや友達一人一人を大切にすることなど身近なところから始められることを意識し、国際理解についての意識がこれまでより深まっていることに気付くことができるようにする。

**支援5-②** 「WE ARE THE WORLD I・II」の学習を振り返り、本当の国際理解とは何かを自分なりにまとめることで、勉強し始めたときの自分の意識と比較しながら、広い立場での公正、公平に接することが大切だと感じ、差別や不公平に対しては、正義をもって行動したいと考えている新しい自分に出会うことができるようにする。



## 7 要となる道徳の時間

- (1) 主題名 だれもが人として
- (2) 資料名 マーチン少年の夢（5年生の道徳 文溪堂）
- (3) 主題設定の理由

### ① ねらいとする価値について

中心とする内容項目は 4-(2)「だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める」である。

公正、公平は民主主義の基本である社会正義の実現に向けて欠かせない価値観であり、「一人一人がかけがえのない存在である」という人間愛が基本になければならない。しかし、私たちの生活においては、利害や感情が先行し、公正、公平にふるまえない場合がしばしばある。誰しも弱さをもってはいるが、差別や偏見により人を傷つけたり苦しめたりすることはあってはならないことである。まず、社会的な差別や不公平さなどの問題について考え、社会正義についての自覚を深めていきたい。そこから日常に目を向け、私的な好き嫌いの感情にとらわれたり、いろいろな偏見をもったり、差別をしたりしないように自覚し、公正、公平に接しようとする態度を育てていきたい。

### ② 児童の実態について

児童(男子7名、女子11名)は、公正、公平にふるまわなければいけないという意識をもってはいる。しかし、4月当初、特定の友達に対しての冷たい態度が気になった。そこで学級のめあてを「仲間を大切にする子」とし、学級作りに取り組んできた。1学期の人権月間での学級の取り組みは「悪口を言わない」ことをめあてにした。児童は悪口がないことで落ち着いた雰囲気になり、グループ内での励まし合いで頑張ったりその心地よさを感じたりし、今後も続けていこうという意見をもつことができた。学習の時間での教え合いや認め合い、なかよし遊び・人権月間の取り組みなどにより、次第に改善されてはいるが、まだ十分とは言えない状況である。身近な学級での友達関係、異学年の関係、男女の関係を見てみると、だんだんとグループが固定化され、仲の良い友達に同調したり人間関係を重視して正しい判断ができにくかったりする様子も見受けられる。本学級には特別支援学級の児童との交流もある。広い心で他の考えや立場を認め合うことができるようにすることが大切であると考え。人はそれぞれに長所もあれば短所もある、能力的にも個性があることを考えさせいろいろな「ちがひ」を知り、お互いに認め合い尊敬し合いながら交流・協力していくことの大切さに気付くことができるようにしたい。

### ③ 資料について

中心資料は「マーチン少年の夢」、キング牧師の少年時代の実話である。「マーチンは、仲よしの白人の友達とは別々の小学校に入学しなければならなくなった。その理由が、自分が黒人だからだと知り、母から人種差別の歴史を聞いた。また、父と出かけた靴店で、差別的な待遇を受けた。その際の不公平な扱いに対する父の立派な態度を見たマーチンは、差別に対して毅然と対応しようと決意した。そして、暴力によらない人種差別解消の運動を続け、1964年にノーベル平和賞を受賞した。」というものである。

内容が身近なものではないので、事前に学級文庫に黒人の人種差別の歴史について書かれた本を置いておき、児童が読めるようにしておきたい。授業の前段では人種差別を受けたマーチン少年の衝撃、疑問、劣等感をとらえ、悔しい思いにしっかり共感させたい。自分の生活を振り返る場面では、実生活に目を向けることができるように、日常観察などを通じて、児童が不公平を感じている事例をつかんでおき、生活を振り返らせる際に役立てたい。また、総合的な学習で学んだ外国の話想起させたい。そして、だれに対しても偏見をもつことなく公正、公平に接することが大切であることをつかませたい。

### (4) ねらい

だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努めようとする態度を養う。

(5) 本時の展開

| 学習活動  | 主な発問と児童の心の動き   | 教師の支援   |
|---|--|---|
| <p>1 不公平だと感じたことを思い出す。</p> <p>2 キング牧師の活躍した時代背景を知り「マーチン少年の夢ーキング牧師」を読んで話し合う。</p> | <p>○身の回りがある不公平だと思っただきごとはありませんか。</p> <p>○友達と遊んではいけないと言われたマーチンは、どんな気持ちになったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えっ、今まで一緒に遊んでいたのに。</li> <li>・どうしてだろう。黒人だから仕方がないのかなあ。変だなあ。</li> <li>・黒人だからという理由だけで差別されて、くやしい、悲しい。</li> </ul> <p>◎白人の店員に裏口のいすに座るように言われたマーチンは、どんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒人なので仕方がないのかなあ。</li> <li>・どうしようもない。我慢して裏口に行こう。</li> <li>・おかしいことを言うなあ。</li> <li>・腹が立つ。差別をする店は、ごめんだ。</li> <li>・そんなことはおかしい。偏見には絶対に負けるものか。</li> <li>・皮膚の色で差別をするのは許せない。</li> </ul> <p>○ノーベル平和賞を受賞したキング牧師は、どんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この賞は、黒人みんなの賞だ。</li> <li>・つらいこともあったけれど、人種差別をなくそうとする運動が世界に認められてうれしい。</li> <li>・これからも、世界中の差別と闘おう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・不公平なできごとを思い出すことで、ねらいとする価値への方向付けをする。</li> <li>・キング牧師の写真を掲示し、アメリカ南部の奴隷制度と1863年の奴隷解放宣言、人種差別について簡単に話し、資料への導入を図る。</li> <li>・人種差別を受けた衝撃、疑問、劣等感などの観点で板書することで、マーチン少年の気持ちを整理する。</li> <li>・店員から裏口のいすに座るように言われたときのマーチン少年の気持ちを二人組で話すことにより、マーチンの気持ちに共感することができるようにする。</li> <li>・教師が店員役、児童がマーチン役になって役割演技を行うことによって、不合理な差別を受けたマーチンの気持ちに共感することができるようにする。さらに、父親の毅然とした態度への尊敬の気持ちを押しえることができるようにする。</li> <li>・1955年のモントゴメリー市バス乗車拒否運動に始まるキング牧師の非暴力運動の高まりと、それに対する迫害のエピソードについて簡単に紹介してから発問に移り、不合理な人種差別に立ち向かうキング牧師の信念と情熱に気付かせる。</li> </ul> |
| <p>3 生活を振り返り、不公平について考える。</p>  | <p>○身の回りで、不公平だ、おかしいと思ったことはありませんか。その時どう思いましたか。どんな行動をとりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じようにいたずらをしたのに、ぼくにだけ仕返しをされていやだった。でも、何もできなかった。</li> <li>・C I Rの先生の話聞いて、そんな事があるんだと思った。やっぱりおかしい。</li> <li>・難民の話、ネパールやミャンマーの子どもたちの話を聞いて、不公平だと思った。</li> <li>・「男は…」という言い方をされると、女子を差別されているような気がした。だから、言いくかっただけだけれど言い方を注意したことがある。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を十分に確保し、ワークシートに書くことで、だれに対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平にすることの大切さについて考えを深めることができるようにする。</li> </ul>  |
| <p>4 心のノートを読む。</p>  | <p>○心のノートP84を全員で読みましょう。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・心のノートを読むことで、広く社会の中にある差別や偏見について気付き、「みんな同じかけがえのないひとりの人間」という言葉が心に響き、刻まれていくようにする。</li> </ul>  |



